



2022年合格目標
基礎マスター・速修コース

簿記論

BOOKKEEPING

基本テキスト
No.1



TAC税理士講座

簿記論・基礎マスターコース（9月から12月まで）で使用する教材及び各教材の配布時期は以下のとおりになります。

教 材 名	9月	10月	11月	12月
基本テキスト	No.1	No.2	No.3	No.4
トレーニング	No.1	No.2	No.3	No.4
トレーニングシート	No.1	No.2	No.3	No.4
ミニ・実力テスト	各月の授業回数に応じて配布			

《税理士試験の受験手続き》

1 受験案内及び申込用紙の交付

- (1) 交付期間：例年4月中旬から5月中旬
- (2) 交付場所：試験公告に記載された各国税局及び沖縄国税事務所

2 受験申込みの受付

受付期間：例年5月上旬から5月中旬

なお、TACでは受験申込の代行は行っておりません。受験申込手続きは必ずご自身で行っていただきますようお願い申し上げます。

簿記論・速修コース（1月から4月まで）で使用する教材及び各教材の配布時期は以下のとおりになります。

教 材 名	1月	2月	3月	4月
基本テキスト	No.1	No.2	No.3	No.4
トレーニング	No.1	No.2	No.3	No.4
トレーニングシート	No.1	No.2	No.3	No.4
ミニ・実力テスト	各月の授業回数に応じて配布			

《税理士試験の受験手続き》

1 受験案内及び申込用紙の交付

- (1) 交付期間：例年4月中旬から5月中旬
- (2) 交付場所：試験公告に記載された各国税局及び沖縄国税事務所

2 受験申込みの受付

受付期間：例年5月上旬から5月中旬

なお、TACでは受験申込の代行は行っておりません。受験申込手続は必ずご自身で行っていただきますようお願い申し上げます。

① 使用教材の内容

1 基本テキスト

学習の中心となる説明用教材です。図表をふんだんに盛り込むことにより、全体像やポイントを分かりやすく解説しています。また、設例を多く入れることにより、1つ1つの内容を確認しながら学習を進めることができるようになっています。

2 トレーニング・トレーニングシート（解答用紙）

基本テキストで学習した内容を問題形式で確認するための演習用教材です。基本テキストと連動し、段階的にレベルアップできるようになっています。

基本テキストの内容と対応する問題は、基本テキストの「コントロールタワー」で確認ができるようになっています。

3 ミニテスト

前回の学習内容を中心に、前回までの学習内容が消化できているかを確認するための復習テストです。基本的に前回の学習内容が消化できていれば満点が取れるようになっています。

毎回の学習に先立って解くことにより、前回の学習内容の理解度を確認するバロメーターとして利用できるようになっています。

4 実力テスト

一定期間ごとに、既に学習した内容が消化されているかを確認するとともに、総合的な理解度をチェックするための復習テストです。後日公表される平均点や得点順位なども参考にして、今後の学習方法や学習計画に役立てるようにしてください。

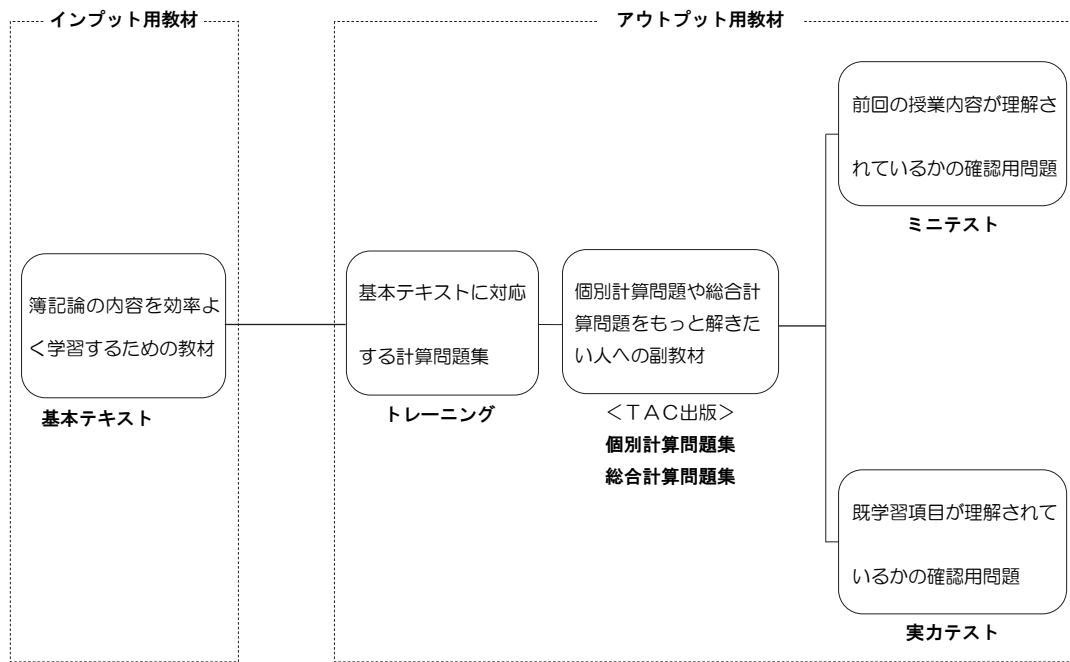
5 その他

上記のほかに、TAC出版から次の問題集が順次刊行されていきます。自宅学習用として弱点の補強などに利用できるようになっています。

- ・個別計算問題集
- ・総合計算問題集（基礎編）
- ・総合計算問題集（応用編）
- ・過去問題集など

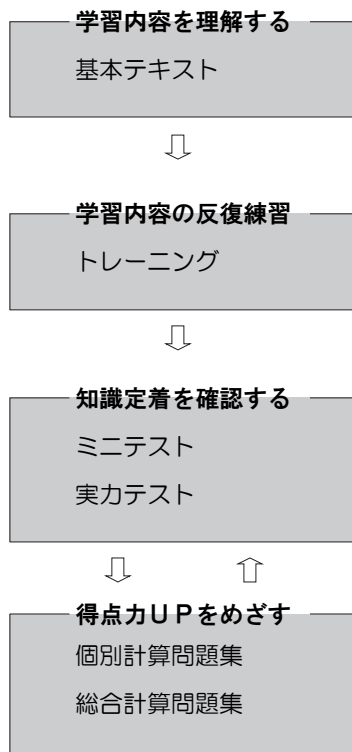
【各教材の体系】

各コースで使用する教材のうち主要なものは、次のような体系となっています。



② 各教材を利用した学習の基本的な流れ

上記の教材を利用して学習を進めていく場合の基本的な流れは、次のようになります。



③ 基本テキストの構成

1 コントロールタワー

基本テキストの最初に収録しているもので、いわゆる目次に相当します。授業回数ごとに学習内容やこれに対応するトレーニングや理論マスターの番号などを示しています。

2 学習内容の全体系

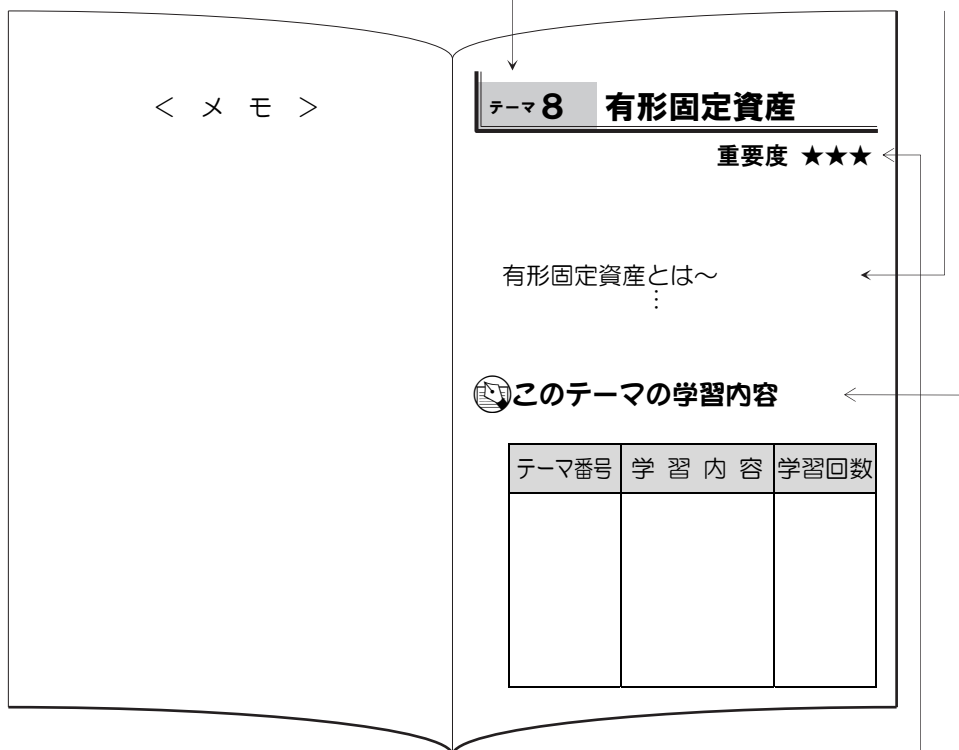
直前期を除いて各コースで学習するテーマの全体像と、どのテキストで学習するのかを示しています。

3 テーマごとの構成内容

テーマごとのテキストの構成は、次のようになっています。

テーマ番号・テーマ内容を示します。

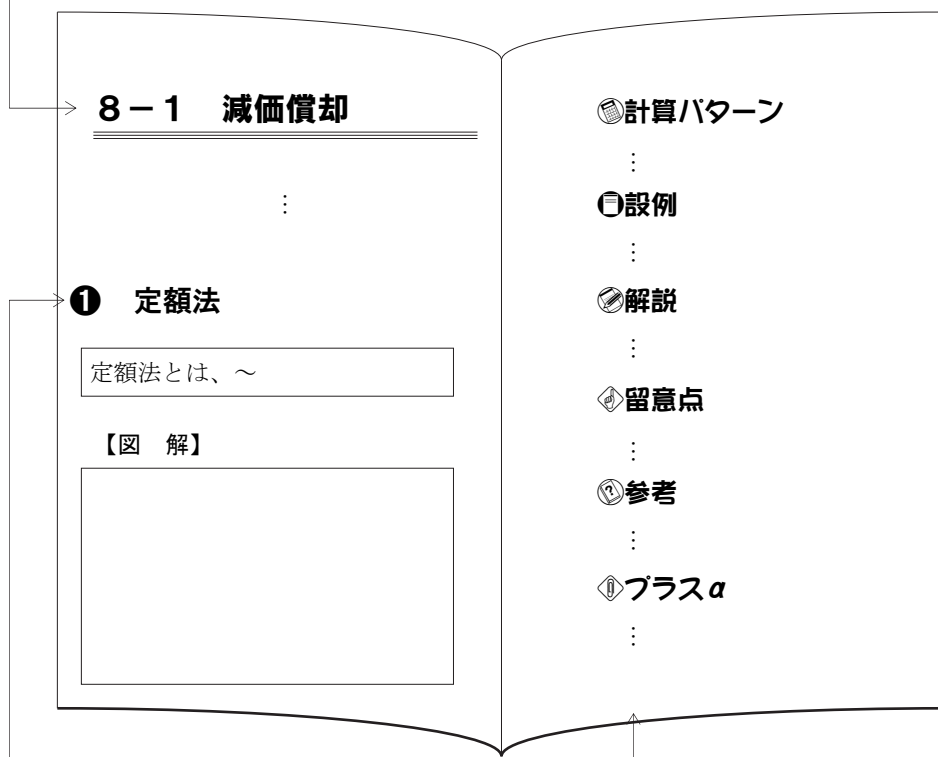
テーマの趣旨や概要を示します。



テーマの重要度を示します。★
の数が多いほど重要度が高くなります。

テーマ内の学習内容と学習する
回数を示します。

テーマを細分化した論点です。



論点を細分化した内容解説です。図解などを用いて説明していますので、読んで理解できるようになっています。

説明の文章は、必要に応じて記号で示された内容ごとに区別していますので、一覧性があり、効果的に学習できるようになっています。

【各記号の内容】

- | | |
|----------|----------------------------|
| ① 計算パターン | ⇒ 複数の論点を横断するまとめの計算式を示します。 |
| ② 設例 | ⇒ 各論点の理解を深めるための例題を示します。 |
| ③ 解説 | ⇒ 設例に対する解答及び解説を示します。 |
| ④ 留意点 | ⇒ 注意してほしい補足事項及び重要事項を示します。 |
| ⑤ 参考 | ⇒ 補足的な参照規定などを示します。 |
| ⑥ プラスα | ⇒ 補足説明、未出題論点及び応用論点などを示します。 |
| ⑦ 研究 | ⇒ さらに深く学習する場合の説明などを示します。 |

(注) 説明の内容により、すべての記号が使用されるわけではありません。

<メ モ>

簿記論 基礎マスターコース 基本テキストNo.1 コントロールタワー

教材 回数	学 習 内 容	テキスト	トレーニング
第 1 回	簿記一巡の手続	P. 1 ゝ P. 20	問題 1 ゝ 問題 7
第 2 回	債権・債務 現金・預金(1)	P. 21 ゝ P. 41	問題 8 ゝ 問題14
第 3 回	現金・預金(2) 手形 貸倒引当金(1)	P. 42 ゝ P. 67	問題15 ゝ 問題26
第 4 回	貸倒引当金(2) 人件費(1) 一般商品売買(1)	P. 68 ゝ P. 91	問題27 ゝ 問題39
第 5 回	一般商品売買(2)	P. 92 ゝ P. 110	問題40 ゝ 問題45
第 6 回	有形固定資産・無形固定資産(1)	P. 111 ゝ P. 135	問題46 ゝ 問題58
第 7 回	有形固定資産・無形固定資産(2) ソフトウェア 研究開発費	P. 136 ゝ P. 160	問題59 ゝ 問題74
第 8 回	外貨建取引等(1) 実力テスト（通信添削問題）	P. 161 ゝ P. 167	問題75 ゝ 問題77

簿記論 速修コース 基本テキストNo.1 コントロールタワー

回数 教材	学 習 内 容	テキスト	トレーニング
第 1 回	簿記一巡の手続	P. 1 ゝ P. 20	問題 1 ゝ 問題 7
第 2 回	債権・債務 現金・預金(1)	P. 21 ゝ P. 41	問題 8 ゝ 問題14
第 3 回	現金・預金(2) 手形 貸倒引当金(1)	P. 42 ゝ P. 67	問題15 ゝ 問題26
第 4 回	貸倒引当金(2) 人件費(1) 一般商品売買(1)	P. 68 ゝ P. 91	問題27 ゝ 問題39
第 5 回	一般商品売買(2)	P. 92 ゝ P. 110	問題40 ゝ 問題45
第 6 回	有形固定資産・無形固定資産(1)	P. 111 ゝ P. 135	問題46 ゝ 問題58
第 7 回	有形固定資産・無形固定資産(2) ソフトウェア 研究開発費	P. 136 ゝ P. 160	問題59 ゝ 問題74
第 8 回	外貨建取引等(1) 実力テスト（通信添削問題）	P. 161 ゝ P. 167	問題75 ゝ 問題77

テーマ	学 習 内 容	基本テキスト			
		No. 1	No. 2	No. 3	No. 4
1	簿記一巡の手続	●			
2	債権・債務	●			
3	現金・預金	●			
4	手形	●			
5	貸倒引当金	●	●		
6	人件費	●		●	●
7	一般商品売買	●			
8	有形固定資産・無形固定資産	●	●	●	
9	ソフトウェア	●			●
10	研究開発費	●			
11	外貨建取引等	●		●	
12	株主資本		●		
13	税金		●	●	
14	社債		●		
15	有価証券		●	●	
16	新株予約権		●		
17	繰延資産			●	
18	製造業会計				●
19	本支店会計			●	
20	財務諸表				●
21	会計上の変更・誤謬の訂正				●
22	推定簿記				●
23	組織再編				●
24	連結財務諸表				●

(注) No.2以降で論点の変更が生じる可能性があります。

< ✕ ㊦ >

教材のご利用方法

(1) 基本テキスト

- ▽ 授業及び復習時における論点のインプット・ツールとなります。論点説明で論点の
- ▽ 概要を理解し、設例を通じて具体的な会計処理や金額の計算方法について正確な知識
- ▽ を身につけていきます。

(2) トレーニング

- ▽ 授業及び復習時における論点のアウトプット・ツールとなります。トレーニングの
- ▽ 問題はスムーズに解答できるまで、繰り返し何度も練習しましょう。

(3) ミニテスト

- ▽ 前回の授業内容についての確認テストとなります。復習の成果をどこまで発揮でき
- ▽ るか、チャレンジしてみましょう。

(4) 実力テスト

- ▼ 月に1回実施する月末テストです。出題内容はその月までに学習した論点で、出題
- ▼ 形式は総合問題が中心となります。学習進度に合わせて、その時点での実力を総チェ
- ▼ ックしましょう。

(5) 市販問題集

論点について、より多くの問題にチャレンジしたい、理解をより深く掘り下げたい、本試験形式の問題にチャレンジしたいというときには、市販問題集をお勧めします。

- ① 個別計算問題集…応用的な個別問題となります。
- ② 総合計算問題集（基礎編・応用編）…構造論点のフレームに重点をおいた総合問題となります。

財務諸表の様式

貸 借 対 照 表

(資産の部)

I 流動資産

現金及び預金
受取手形
貸倒引当金 (△)
売掛金
貸倒引当金 (△)
有価証券
商品
貯蔵品
前渡金
前払費用
未収収益
短期貸付金
貸倒引当金 (△)
未収金
為替予約
⋮

II 固定資産

1 有形固定資産
建物
減価償却累計額 (△)
車両運搬具
減価償却累計額 (△)
器具備品
減価償却累計額 (△)
⋮
土地
建設仮勘定
2 無形固定資産
のれん
借地権
特許権
ソフトウェア
⋮
3 投資その他の資産
投資有価証券
関係会社株式
破産更生債権等
貸倒引当金 (△)
⋮
繰延税金資産

III 繰延資産

(負債の部)

I 流動負債

支払手形
買掛金
短期借入金
未払金
未払費用
未払法人税等
未払消費税等
前受金
預り金
前受収益
賞与引当金
⋮

II 固定負債

社債
長期借入金
⋮
退職給付引当金
⋮
繰延税金負債

(純資産の部)

I 株主資本

1 資本金
2 資本剰余金
(1) 資本準備金
(2) その他資本剰余金
3 利益剰余金
(1) 利益準備金
(2) その他利益剰余金
新築積立金
⋮
別途積立金
繰越利益剰余金

4 自己株式 (△)

II 評価・換算差額等

1 その他有価証券評価差額金
2 繰延ヘッジ損益
⋮

III 新株予約権

損 益 計 算 書

I 売上高

II 売上原価

- 1 商品期首たな卸高
- 2 当期商品仕入高
- 合 計
- 3 他勘定振替高
- 4 商品期末たな卸高
- 差 引
- 5 商品評価損
- 売上総利益

III 販売費及び一般管理費

給料手当
賞与手当
役員報酬
旅費交通費
修繕費
支払手数料
租税公課
研究開発費
貸倒損失
商品減耗損
減価償却費
のれん償却
特許権償却
ソフトウェア償却
貸倒引当金繰入額
賞与引当金繰入額
退職給付費用
:
営業利益

IV 営業外収益

受取利息
有価証券利息
受取配当金
仕入割引
有価証券運用益
為替差益
雑収入
償却債権取立益

:

V 営業外費用

支払利息
社債利息
売上割引
手形売却損
有価証券運用損
為替差損
雑損失

:

経常利益

VI 特別利益

有形固定資産売却益
保険差益
投資有価証券売却益

:

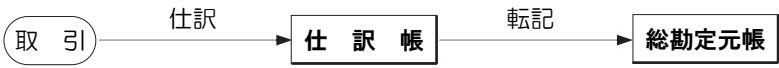
VII 特別損失

有形固定資産売却損
有形固定資産除却損
火災損失
減損損失
投資有価証券売却損

:

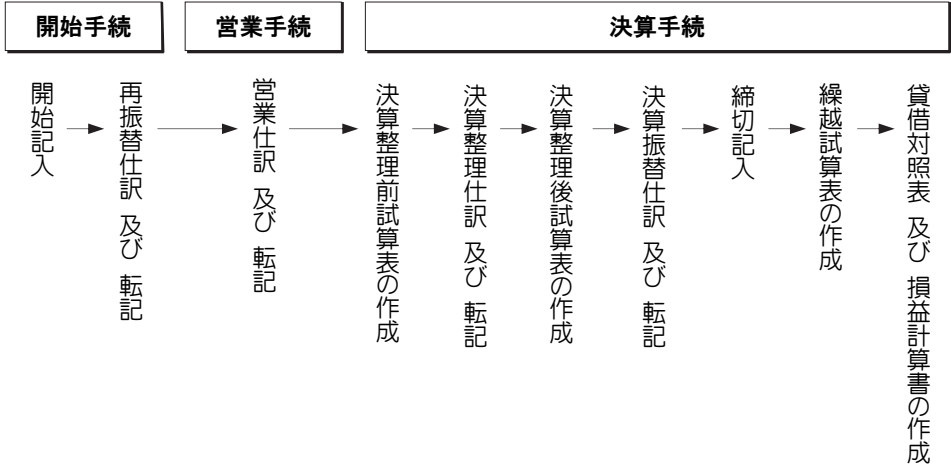
税引前当期純利益
法人税、住民税及び事業税
法人税等調整額
当期純利益

記帳の流れ

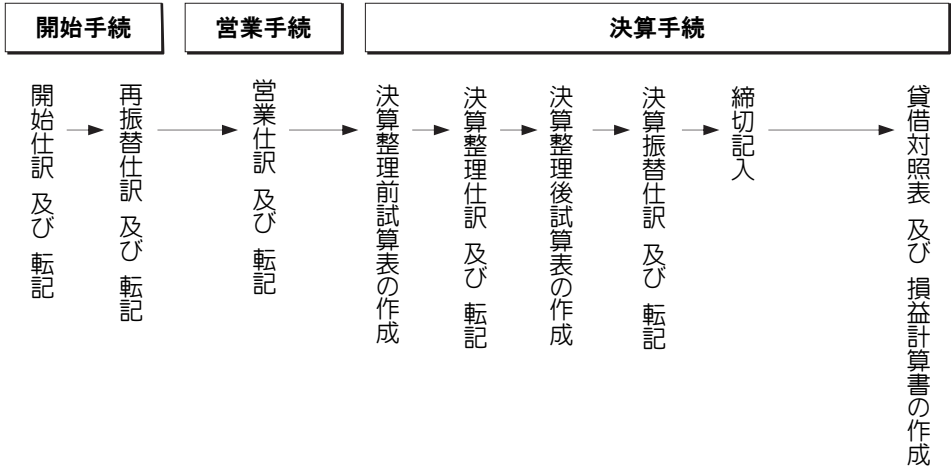


補 助 簿	
小口現金支払帳	買掛金(仕入先)元帳
現金出納帳	売掛金(得意先)元帳
当座預金出納帳	商品有高帳
仕入帳	有価証券台帳
売上帳	固定資産台帳
受取手形記入帳	
支払手形記入帳	

英米式簿記法による簿記一巡の手続



大陸式簿記法による簿記一巡の手続



仕訳帳（主要簿）

正式な仕訳の記帳方法は、次に示すとおりとなる。

- ① 日付欄：取引が同じ日に生じた場合には、「〃」の記号を用いるのが一般的である。
- ② 摘要欄：勘定科目を記入する。ただし、次の点に注意すること。
 - (a) 摘要欄の左側半分を借方、右側半分を貸方とする。
 - (b) 勘定科目は、1 勘定科目につき 1 行で記入し、原則として借方を上に貸方を下に記入する。ただし、借方が複数で貸方に 1 個しか勘定科目が記入されないときは、貸方を上に借方を下に記入する。
 - (c) 勘定科目には（ ）を付す。
 - (d) 借方または貸方の勘定科目が複数になる場合には、その上に「諸口」と記入する。
この「諸口」には（ ）を付さない。
- ③ 小書き：仕訳の都度、仕訳内容を簡単に説明する。ただし、学習簿記では省略されることが多い。
- ④ 元丁欄：総勘定元帳への転記を行うにあたって、総勘定元帳のページ数または勘定番号を記入する。丁数欄ともいう。
- ⑤ 金額欄：借方の勘定科目に対する金額を借方欄に、貸方の勘定科目に対する金額を貸方欄に、それぞれの勘定科目を記入した行と同じ行に記入する。
- ⑥ 区分線：一つの仕訳ごとに摘要欄に単線を引く。ただし、ページの最後となった場合には、区分線を引く必要はない。
- ⑦ 合計線：これより前に記入された金額について、合計額を算定する。なお、合計線は金額欄の幅で引かれる。
- ⑧ 締切線：仕訳帳の締切にあたり、前後の記録を区分するために引かれる。なお、締切線は金額欄の幅で引かれる。

仕 訳 帳					
① 日 付	② 摘 要	④ 元 丁	借 方	貸 方	
8 28	(売 掛 金)	2	8,000		
	(売 上)	9		8,000	
③ 掛売上					
〃	諸 口 (有 価 証 券)	4		1,500	
	(当 座 預 金)	1	1,400		
⑥	(有価証券売却損益)	15	100		
	有価証券の売却				
	合 計		9,500	9,500	⑦ ⑧

総勘定元帳（主要簿）

正式な勘定の形式、記入方法及び締切方法は、次に示すとおりである。ただし、学習簿記では簡便的にT勘定で示ことが多い。

(1) 勘定の記入方法

- ① 勘定科目：記録する項目を示す。
- ② 日付欄：取引が行われた日付を記入する。なお、同じ日付が連続する場合には「〃」の記号を用いる。
- ③ 摘要欄：相手勘定科目を記入する（詳細は下記(2)参照）。
- ④ 仕丁欄：転記元である仕訳帳のどの頁から転記がされてきたかを記入する。
- ⑤ 金額欄：取引金額を記入する。
- ⑥ 合計線：これより前に記入された金額について、合計額を算定する。なお、合計線は金額欄の幅で引かれ、記録が1行しかない場合には、合計線は不要となる。
- ⑦ 締切線：勘定の締切にあたり、前後の記録を区分するために引かれる。なお、締切線は金額欄の幅で引かれる。
- ⑧ 余白線：勘定の締切にあたり、余白がある場合には摘要欄に斜線を引き、以後の記入ができないようにする。なお、余白線を引く場合は、合計線を延ばして余白線と繋げる。

(単位：円)

② 日付	③ 摘 要	④ 仕丁	⑤ 金 額	① 金	② 日付	③ 摘 要	④ 仕丁	⑤ 金 額
4/1	前 期 繰 越	1	10,000		6/10	買 掛 金	2	8,000
7/20	借 入 金	3	4,000		2/25	営 業 費	5	1,000
8/17	受 取 利 息	4	3,000		3/31	次 期 繰 越	6	15,000
〃	売 掛 金	4	7,000					
			24,000					24,000

(2) 摘要欄の記入方法

- ① 相手勘定科目を記入する。
- ② 相手勘定科目が複数ある場合には、「諸口」と記入する。
- ③ 記録内容を一覧する機能を有する勘定（損益勘定や残高勘定など）については、相手勘定科目が複数であっても「諸口」とはせず、相手勘定科目をすべて記入する。
- ④ 資産、負債及び純資産勘定の期首残高及び期末残高について、大陸式簿記法の場合には「諸口」及び「残高」と記入する。

補助簿

I 現金出納帳

現金の記録を現金勘定という単一勘定で処理をすると、現金取引の内訳明細を把握することはできない。そこで、この欠点を補うために、主要簿（仕訳帳及び総勘定元帳）の他に補助簿を設定し、現金取引の内訳明細を取引の発生順に把握する場合がある。この補助簿を現金出納帳という。

現金出納帳

(単位：円)

日付	摘 要	収 入	支 出	残 高
4/1	前期繰越	6,000		6,000
4/10	甲商店へ売上	1,000		7,000
4/15	乙商店へ掛代金支払		3,000	4,000
4/30	次月繰越		4,000	
		7,000	7,000	

II 小口現金支払帳

小口現金の記録を小口現金勘定という単一勘定で処理をすると、小口現金取引の内訳明細を把握することはできない。そこで、この欠点を補うために、主要簿（仕訳帳及び総勘定元帳）の他に補助簿を設定し、小口現金取引の内訳明細を取引の発生順に把握する場合がある。この補助簿を小口現金支払帳という。

小口現金支払帳

(即日補給の場合)

(単位：円)

受 入	日付	摘 要	支 払	内 訳		
				通信費	消耗品費	雑 費
30,000	4/1	前期繰越				
	4/10	郵便切手	9,000	9,000		
	4/15	文房具代	6,000		6,000	
	4/25	新聞代	5,000			5,000
		合 計	20,000	9,000	6,000	5,000
20,000	4/30	本日補給				
	〃	次月繰越	30,000			
50,000			50,000			

Ⅲ 当座預金出納帳

当座預金の記録を当座預金勘定という単一勘定で処理をすると、当座預金取引の内訳明細を把握することはできない。そこで、この欠点を補うために、主要簿（仕訳帳及び総勘定元帳）の他に補助簿を設定し、当座預金取引の内訳明細を取引の発生順に把握する場合がある。この補助簿を当座預金出納帳という。

当 座 預 金 出 納 帳

(単位：円)

日付	摘 要	預 入	引 出	借／貸	残 高
4/1	前期繰越	6,000		借	6,000
4/10	B商店へ掛代金支払 No.1201		2,000	〃	4,000
4/15	C商店より掛代金回収	3,000		〃	7,000
4/30	次月繰越		7,000		
		9,000	9,000		

Ⅳ 売掛金元帳と買掛金元帳

売掛金の記録を売掛金勘定という単一勘定で処理をすると、各得意先別の売掛金の明細を把握することはできない。そこで、この欠点を補うために、主要簿（仕訳帳及び総勘定元帳）の他に補助簿を設定し、各得意先別の売掛金の明細を把握する場合がある。この補助簿を売掛金元帳（得意先元帳）という。

なお、買掛金勘定も同様の理由から買掛金元帳（仕入先元帳）を設定する場合がある。

売 掛 金 元 帳

A 株 式 会 社

(単位：円)

日 付	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
4 1	前 期 繰 越	✓	50,000		借	50,000
	5 掛 売 上	1	20,000		借	70,000

B 株 式 会 社

(単位：円)

日 付	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
4 1	前 期 繰 越	✓	90,000		借	90,000
	10 当 座 回 収	1		50,000	借	40,000

V 受取手形記入帳と支払手形記入帳

手形債権の記録を受取手形勘定という単一勘定で処理すると、手形債権の明細を把握することはできない。そこで、この欠点を補うために、主要簿（仕訳帳及び総勘定元帳）の他に補助簿を設定し、手形債権の明細を把握する場合がある。この補助簿を受取手形記入帳という。

なお、手形債務も同様の理由から、支払手形記入帳を設定する場合がある。

受取手形記入帳

（単位：円）

日 付		種 類	番 号	摘 要	支払人	振出人・裏書人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	て ん 末		
							月	日	月	日			月	日	摘 要
4	1	約	19	売 上	A株式会社	A株式会社	4	1	5	10	甲銀行	80,000	5	10	取 立
	15	為	71	売掛金	C株式会社	B株式会社	4	15	5	25	乙銀行	70,000	5	15	譲 渡
	20	約	12	売 上	E株式会社	D株式会社	3	26	5	30	丙銀行	60,000			

支払手形記入帳

（単位：円）

日付		種類	番号	摘要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	て ん 末		
							月	日	月	日			月	日	摘要
4	2	約	10	仕入	F株式会社	当 社	4	2	5	21	甲銀行	50,000	5	21	支払
	16	為	55	買掛金	H株式会社	G株式会社	4	16	6	4	乙銀行	40,000			

学習にあたっての注意事項

(1) 税理士試験では、黒色または青色のボールペンまたは万年筆で解答しなければいけません。間違えた場合には、修正液や修正テープの使用は認められますが、消せるボールペンの使用は認められませんので、修正液や修正テープを用いない場合には次に示すとおりに訂正してください。

① 金額を間違えた場合…間違えた金額の全てに二重線を引いて訂正します。

(正) 160,000

(誤) ~~100,000~~

② 文字を間違えた場合…間違えた文字のみに二重線を引いて訂正します。

(正) 減

(誤) ~~原~~価 償 却

(2) 金額を示すときには、読みやすくするため、必ず3桁ごとにカンマを付すようにしましょう。なお、本試験ではカンマがない場合、不正解となることがあります。

1,000,000,000
↑ ↑ ↑ ↑
十億 百万 千 円

よく使用される略号等

- (1) B／S……貸借対照表（Balance Sheetの略）
- (2) P／L……損益計算書（Profit and Loss Statementの略）
- (3) C／F……キャッシュ・フロー計算書（Cash Flow Statementの略）
- (4) S／S……株主資本等変動計算書（Statements of Shareholders' Equityの略）
- (5) C／R……製造原価報告書（Cost Reportの略）
- (6) F／S……財務諸表（Financial Statementsの略）
- (7) T／B……試算表（Trial Balanceの略）
- (8) W／S……精算表（Working Sheetの略）
- (9) a／c……勘定（accountの略）
- (10) //………同上の意味。原則的に日付に使用する（勘定科目と金額には使用不可）。
- (11) ✓………チェック・マーク。転記済、照合済、引合済を意味する。
- (12) 借………借方のこと。
- (13) 貸………貸方のこと。
- (14) 丁数………ちょうすう。ページ数のこと。
- (15) 元丁………元帳丁数のこと。
- (16) 仕丁………仕訳帳丁数のこと。
- (17) @………単価（atの略）
- (18) D r ……借方（Debtorの略）
- (19) C r ……貸方（Creditorの略）

< ✕ ㊦ >

簿記論

テキスト

<今回の学習内容>

第1回講義 使用ページ
P 1 ~20

テーマ 1

簿記一巡の手続

重要度 ★★★

簿記とは、企業が(1)一事業年度においてどれだけ儲かったか（損益計算）及び(2)決算時点における財産の有高はいくらか（財産管理）を明らかにする目的で、企業の営業活動による財産の増減変化を帳簿に記入することをいう。

具体的には、取引について仕訳帳で仕訳を行い、総勘定元帳の各勘定へ転記し、期末に決算を行って帳簿を締め切り、財務諸表を作成するという一連の行為を、每期、繰り返して行うことである。この一連の手続を「簿記一巡の手続」という。

なお、簿記一巡の手続には、原則法である「大陸式簿記法」と簡便法である「英米式簿記法」の2つの方法がある。



このテーマの学習内容

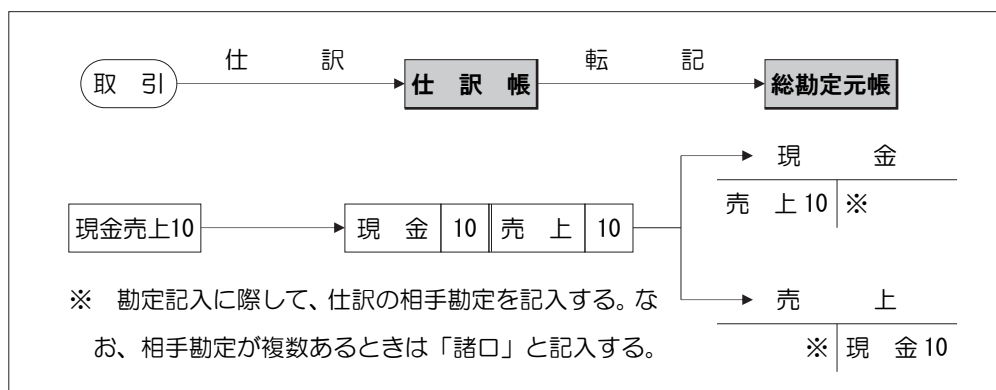
テーマNo.	学 習 内 容	基礎マスター	速 修
1-1	簿記一巡の手続（その1）	No.1 第1回	No.1 第1回
1-2	簿記一巡の手続（その2）	No.1 第1回	No.1 第1回

（注）本テキストでは、日商簿記3級で学習済みの内容には「◎」を、一部学習済みの内容には「○」を付している。

1-1 簿記一巡の手続（その1）

① 仕訳と転記（◎）

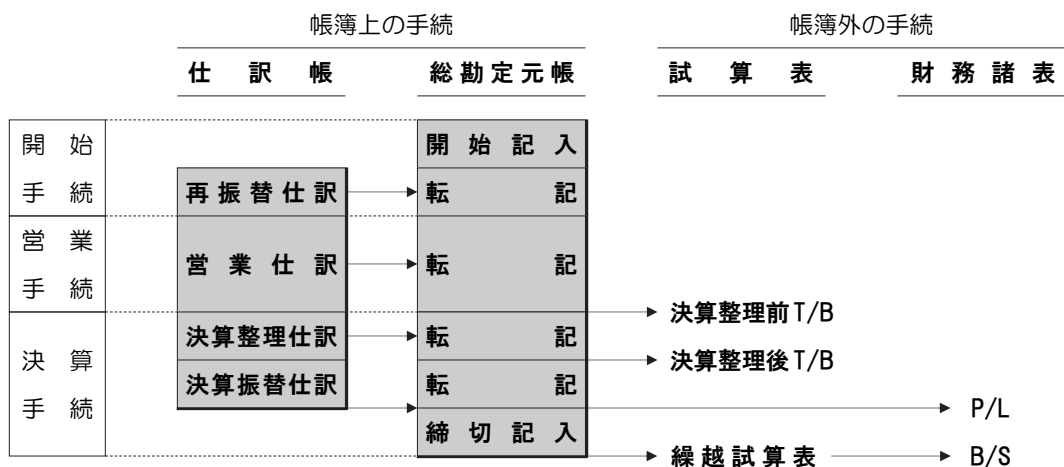
簿記の目的は、すべての取引を借方要素と貸方要素に分解して勘定に記録し、最終的に企業の財政状態と経営成績を明らかにすることにある。ただし、取引を勘定に直接記録しようとすると記録ミスが生じやすいため、勘定に記録する前に、取引を(1)記録すべき勘定科目、(2)借方・貸方の別及び(3)金額に分解し（これを「仕訳」という。）、その結果を勘定に記録することとなる（これを「転記」という。）。なお、仕訳を行う帳簿を「仕訳帳」といい、すべての勘定が設けられている帳簿を「総勘定元帳」という。



② 英米式簿記法と大陸式簿記法

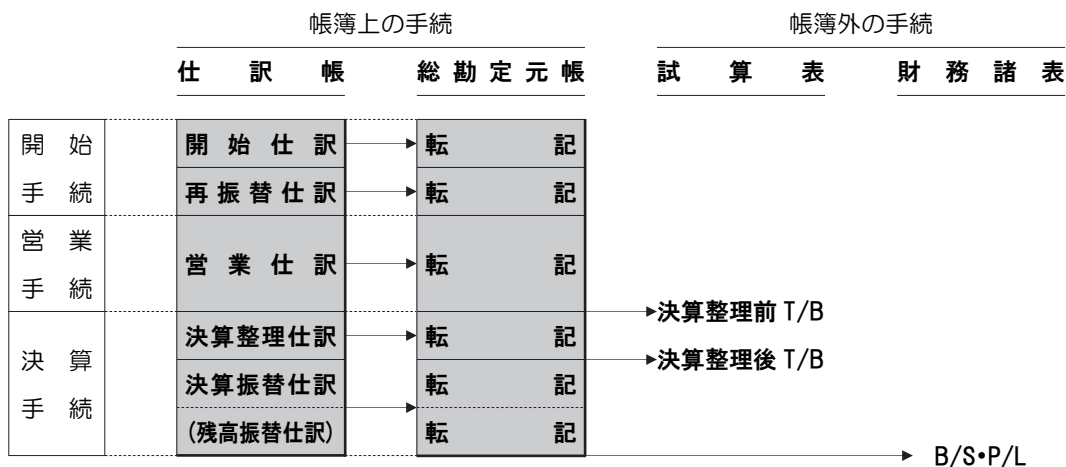
(1) 英米式簿記法 (◎)

英米式簿記法とは、期首及び期末の記帳手続を簡便にした簿記法をいう。英米式簿記法では、期首及び期末の資産・負債・純資産（資本）の残高について、仕訳帳における仕訳を省略して総勘定元帳へ直接「開始記入（前期繰越）」及び「締切記入（次期繰越）」を行う。また、締切記入が正しく行われたかどうかを検証するため、資産・負債・純資産（資本）の次期繰越高を集めて繰越試算表を作成し、これに基づいて貸借対照表を作成する。



(2) 大陸式簿記法

大陸式簿記法とは、記帳原則に忠実な簿記法であり、総勘定元帳への記録をすべて仕訳帳における仕訳を転記することにより行う。



1-2 簿記一巡の手続（その2）

① 開始手続

開始手続とは、期首において営業手続に先立って行われる手続である。

1 英米式簿記法（◎）

英米式簿記法では「開始記入」及び「※再振替仕訳・転記」からなる。

2 大陸式簿記法

大陸式簿記法では「開始仕訳・転記」及び「※再振替仕訳・転記」からなる。

※ 期首における経過勘定を費用勘定及び収益勘定に振り戻す手続である。

<経過勘定>

前払費用 ⇨ 資産勘定

前受収益 ⇨ 負債勘定

未収収益 ⇨ 資産勘定

未払費用 ⇨ 負債勘定

② 営業手続（◎）

営業手続とは、期中において営業取引を記帳する手続であり、営業取引を仕訳帳に仕訳して総勘定元帳へ転記するという一連の手続の繰り返しである。

③ 決算手続

決算手続とは、期末において当期純利益及び財産有高を算定する手続である。

1 決算整理前試算表（◎）

簿記では、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたか否かを検証するため、一定時点において総勘定元帳に設けられているすべての勘定の金額を集計して一覧表を作成する。この一覧表を「試算表」という。

決算にあたっては、営業手続までの記帳内容について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたか否かを検証するため、「決算整理前試算表」を作成する。

2 決算整理（○）

総勘定元帳の記録が正しいものであっても、期末における各勘定残高が、そのまま当期における損益の発生額や、期末における財産有高を示しているとは限らない。そこで、決算において当期における損益の発生額及び期末における財産有高を確定するため、総勘定元帳の記録を修正する手続を行う。これを「決算整理」という。決算整理には、次に示すものがある。

(1) 売上原価の算定

(5) 固定資産の減価償却

(2) 棚卸資産の評価

(6) 有価証券の評価

(3) 費用・収益の見越・繰延

(7) 法人税等の計上

(4) 貸倒引当金の設定

3 決算整理後試算表（◎）

決算整理について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたか否かを検証するため、決算整理後における各勘定の金額を集計して試算表を作成する。この試算表を「決算整理後試算表」という。

4 決算振替と勘定の締切

(1) 英米式簿記法（◎）

① 収益及び費用の損益勘定への振替

決算整理後における収益及び費用の各勘定残高を**損益勘定**に振り替え、当期純利益を算定する。なお、損益勘定は当期純利益の計算要素を一覧する機能を有するため、相手勘定が複数ある場合でも摘要欄に「諸口」とは記入せず、すべての相手勘定を記入することとなる。

また、この振替処理により、収益及び費用の各勘定残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。

② 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損益勘定の残高（当期純利益）を繰越利益剰余金勘定（個人企業の場合は資本金勘定）へ振り替える。なお、繰越利益剰余金は、後に株主配当金などとして処分される。

また、この振替処理により、損益勘定の残高がゼロとなるため、勘定の締切を行い、これに基づいて損益計算書を作成する。

③ 資産、負債及び純資産の勘定の締切

資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高の締め切りを行い、次期繰越と記入する。また、締切記入が正しく行われたかどうかを検証するため、資産・負債・純資産（資本）の次期繰越高を集めて繰越試算表を作成し、これに基づいて貸借対照表を作成する。

(2) 大陸式簿記法

① 収益及び費用の損益勘定への振替

⇒ **英米式簿記法と同じ**

② 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

⇒ **英米式簿記法と同じ**

③ 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替

資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高を**残高勘定**に振り替え、期末財産有高が貸借平均することを確認する。

なお、残高勘定は期末財産有高を一覧する機能を有するため、相手勘定が複数ある場合でも摘要欄に「諸口」とは記入せず、すべての相手勘定を記入することとなる。

また、この振替処理により、資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。

設 例

当期は x 1 年 4 月 1 日から x 2 年 3 月 31 日である。

1 期首における前期繰越高の内容は、次に示すとおりである。

- (1) 資産勘定：現金 4,500円、繰越商品 500円
- (2) 負債勘定：未払賃借料 100円
- (3) 純資産勘定：資本金 3,500円、繰越利益剰余金 1,400円

2 期中における営業取引は、次に示すとおりである。

- (1) 商品4,000円を現金で仕入れた。
- (2) 商品6,000円（売価）を現金で売り上げた。
- (3) 賃借料1,750円を現金で支払った。

3 期末における決算整理整理事項は、次に示すとおりである。

- (1) 期末商品棚卸高 600円
- (2) 未払賃借料 150円

<ケース1> 英米式簿記法で記帳手続を行った場合

<ケース2> 大陸式簿記法で記帳手続を行った場合

<メ モ>



解説 (単位：円)

＜ケース１＞ 英米式簿記法で記帳手続を行った場合

I 期首の開始手続

1 開始記入

(1) 仕訳帳

仕 訳 な し			
---------	--	--	--

(2) 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 前 期 繰 越	4,500	4/1 前 期 繰 越	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前 期 繰 越	500	4/1 前 期 繰 越	3,500
		繰越利益剰余金	
		4/1 前 期 繰 越	1,400

2 再振替仕訳・転記

(1) 仕訳帳

未 払 賃 借 料	100	支 払 賃 借 料	100
-----------	-----	-----------	-----

(2) 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 前 期 繰 越	4,500	4/1 支払賃借料	100
4/1 前 期 繰 越	100	4/1 前 期 繰 越	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前 期 繰 越	500	4/1 前 期 繰 越	3,500
支払賃借料		繰越利益剰余金	
4/1 未払賃借料	100	4/1 前 期 繰 越	1,400

＜ケース２＞ 大陸式簿記法で記帳手続を行った場合

I 期首の開始手続

1 開始仕訳・転記

(1) 仕訳帳

現 金	4,500	未 払 賃 借 料	100
繰 越 商 品	500	資 本 金	3,500
		繰 越 利 益 剰 余 金	1,400

(2) 総勘定元帳

現 金	未払賃借料
4/1 諸 口 ※ 4,500	4/1 諸 口 ※ 100
繰 越 商 品	資 本 金
4/1 諸 口 ※ 500	4/1 諸 口 ※ 3,500
	繰越利益剰余金
	4/1 諸 口 ※ 1,400

※ 例外的に「前期繰越」と記入することもできる。

2 再振替仕訳・転記

(1) 仕訳帳

未 払 賃 借 料	100	支 払 賃 借 料	100
-----------	-----	-----------	-----

(2) 総勘定元帳

現 金	未払賃借料
4/1 諸 口 4,500	4/1 支払賃借料 100 4/1 諸 口 100
繰 越 商 品	資 本 金
4/1 諸 口 500	4/1 諸 口 3,500
支払賃借料	繰越利益剰余金
4/1 未払賃借料 100	4/1 諸 口 1,400

＜ケース１＞ 英米式簿記法で記帳を行った場合

Ⅱ 期中の営業手続（営業取引については、日付の代わりに取引番号を記載している。）

1 仕訳帳

(1)	仕	入	4,000	現	金	4,000
(2)	現	金	6,000	売	上	6,000
(3)	支	払	賃	借	料	1,750
			1,750	現	金	1,750

2 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 前 期 繰 越 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 支払賃借料 100	4/1 前 期 繰 越 100
(2) 売 上 6,000	(3) 支払賃借料 1,750		
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前 期 繰 越 500			4/1 前 期 繰 越 3,500
支払賃借料		繰越利益剰余金	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払賃借料 100		4/1 前 期 繰 越 1,400
仕 入		売 上	
(1) 現 金 4,000			(2) 現 金 6,000

＜ケース２＞ 大陸式簿記法で記帳手続を行った場合

Ⅱ 期中の営業手続（営業取引については、日付の代わりに取引番号を記載している。）

1 仕訳帳

(1)	仕 入	4,000	現 金	4,000
(2)	現 金	6,000	売 上	6,000
(3)	支 払 賃 借 料	1,750	現 金	1,750

2 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 支払賃借料 100	4/1 諸 口 100
(2) 売 上 6,000	(3) 支払賃借料 1,750		
繰越商品		資 本 金	
4/1 諸 口 500			4/1 諸 口 3,500
支払賃借料		繰越利益剰余金	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払賃借料 100		4/1 諸 口 1,400
仕 入		売 上	
(1) 現 金 4,000			(2) 現 金 6,000

＜ケース１＞ 英米式簿記法で記帳を行った場合

Ⅲ 期末の決算手続

１ 決算整理前試算表（帳簿外）

決算整理前試算表

現 金	4,750	資 本 金	3,500
繰 越 商 品	500	繰 越 利 益 剰 余 金	1,400
仕 入	4,000	売 上	6,000
支 払 賃 借 料	1,650		
	10,900		10,900

２ 決算整理

(1) 仕訳帳

① 売上原価の算定

仕 入	500	繰 越 商 品	500
繰 越 商 品	600	仕 入	600

② 費用の見越

支 払 賃 借 料	150	未 払 賃 借 料	150
-----------	-----	-----------	-----

(2) 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 前 期 繰 越 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 支払賃借料 100	4/1 前 期 繰 越 100
(2) 売 上 6,000	(3) 支払賃借料 1,750		3/31 支 払 賃 借 料 150
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前 期 繰 越 500	3/31 仕 入 500		4/1 前 期 繰 越 3,500
3/31 仕 入 600			
支 払 賃 借 料		繰越利益剰余金	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払賃借料 100		4/1 前 期 繰 越 1,400
3/31 未 払 賃 借 料 150			
仕 入		売 上	
(1) 現 金 4,000	3/31 繰 越 商 品 600		(2) 現 金 6,000
3/31 繰 越 商 品 500			

３ 決算整理後試算表（帳簿外）

決算整理後試算表

現 金	4,750	未 払 賃 借 料	150
繰 越 商 品	600	資 本 金	3,500
仕 入	3,900	繰 越 利 益 剰 余 金	1,400
支 払 賃 借 料	1,800	売 上	6,000
	11,050		11,050

＜ケース２＞ 大陸式簿記法で記帳手続を行った場合

Ⅲ 期末の決算手続

1 決算整理前試算表（帳簿外）

決算整理前試算表

現 金	4,750	資 本 金	3,500
繰 越 商 品	500	繰 越 利 益 剰 余 金	1,400
仕 入	4,000	売 上	6,000
支 払 賃 借 料	1,650		
	10,900		10,900

2 決算整理

(1) 仕訳帳

① 売上原価の算定

仕 入	500	繰 越 商 品	500
繰 越 商 品	600	仕 入	600

② 費用の見越

支 払 賃 借 料	150	未 払 賃 借 料	150
-----------	-----	-----------	-----

(2) 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 支払賃借料 100	4/1 諸 口 100
(2) 売 上 6,000	(3) 支払賃借料 1,750	3/31 支払賃借料 150	
繰越商品		資 本 金	
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500		4/1 諸 口 3,500
3/31 仕 入 600			
支払賃借料		繰越利益剰余金	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払賃借料 100		4/1 諸 口 1,400
3/31 未払賃借料 150			
仕 入		売 上	
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600		(2) 現 金 6,000
3/31 繰越商品 500			

3 決算整理後試算表（帳簿外）

決算整理後試算表

現 金	4,750	未 払 賃 借 料	150
繰 越 商 品	600	資 本 金	3,500
仕 入	3,900	繰 越 利 益 剰 余 金	1,400
支 払 賃 借 料	1,800	売 上	6,000
	11,050		11,050

＜ケース１＞ 英米式簿記法で記帳を行った場合

4 決算振替

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

① 仕訳帳

売	上	6,000	損	益	6,000
損	益	5,700	支 払 賃 借 料		1,800
			仕	入	3,900

② 総勘定元帳

支 払 賃 借 料			売 上		
(3) 現 金 1,750	4/1 未払賃借料 100	3/31 損 益 6,000	(2) 現 金 6,000		
3/31 未払賃借料 150	3/31 損 益 1,800				
1,900	1,900				
仕 入			損 益		
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600	3/31 支払賃借料 1,800	3/31 売 上 6,000		
3/31 繰越商品 500	" 損 益 3,900	" 仕 入 3,900			
4,500	4,500				

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

① 仕訳帳

損	益	300	繰越利益剰余金	300
---	---	-----	---------	-----

② 総勘定元帳

繰越利益剰余金			損 益		
4/1 前期繰越 1,400	3/31 支払賃借料 1,800	3/31 売 上 6,000			
3/31 損 益 300	" 仕 入 3,900				
	" 繰越利益剰余金 300				
	6,000	6,000			



損益計算書の作成へ

＜ケース２＞ 大陸式簿記法で記帳を行った場合

4 決算振替

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

① 仕訳帳

売	上	6,000	損	益	6,000
損	益	5,700	支 払 賃 借 料		1,800
			仕	入	3,900

② 総勘定元帳

支 払 賃 借 料				売 上			
(3) 現 金	1,750	4/1 未払賃借料	100	3/31 損 益	6,000	(2) 現 金	6,000
3/31 未払賃借料	150	3/31 損 益	1,800				
	<u>1,900</u>		<u>1,900</u>				
仕 入				損 益			
(1) 現 金	4,000	3/31 繰越商品	600	3/31 支払賃借料	1,800	3/31 売 上	6,000
3/31 繰越商品	500	" 損 益	3,900	" 仕 入	3,900		
	<u>4,500</u>		<u>4,500</u>				

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

① 仕訳帳

損	益	300	繰越利益剰余金	300
---	---	-----	---------	-----

② 総勘定元帳

繰越利益剰余金				損 益			
	4/1 諸 口	1,400	3/31 支払賃借料	1,800	3/31 売 上	6,000	
	3/31 損 益	300	" 仕 入	3,900			
			" 繰越利益剰余金	300			
				<u>6,000</u>			<u>6,000</u>



損益計算書の作成へ

＜ケース１＞ 英米式簿記法で記帳手続を行った場合

5 資産、負債及び純資産の勘定の締切

(1) 仕訳帳

仕 訳 な し			
---------	--	--	--

(2) 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 前 期 繰 越 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 支払賃借料 100	4/1 前 期 繰 越 100
(2) 売 上 6,000	(3) 支払賃借料 1,750	3/31 次 期 繰 越 150	3/31 支払賃借料 150
	3/31 次 期 繰 越 4,750	250	250
10,500	10,500		
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前 期 繰 越 500	3/31 仕 入 500	3/31 次 期 繰 越 3,500	4/1 前 期 繰 越 3,500
3/31 仕 入 600	" 次 期 繰 越 600		
1,100	1,100		
		繰越利益剰余金	
		3/31 次 期 繰 越 1,700	4/1 前 期 繰 越 1,400
		1,700	3/31 損 益 300
			1,700

6 繰越試算表（帳簿外）

繰越試算表			
現 金	4,750	未 払 賃 借 料	150
繰 越 商 品	600	資 本 金	3,500
		繰 越 利 益 剰 余 金	1,700
	5,350		5,350



貸借対照表の作成へ

＜ケース２＞ 大陸式簿記法で記帳手続を行った場合

(3) 資産、負債及び純資産の残高勘定への振替

① 仕訳帳

残 高	5,350	現 金	4,750
		繰越商品	600
未払賃借料	150	残 高	5,350
資 本 金	3,500		
繰越利益剰余金	1,700		

② 総勘定元帳

現 金		未払賃借料	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000	4/1 支払賃借料 100	4/1 諸 口 100
(2) 売 上 6,000	(3) 支払賃借料 1,750	3/31 残 高 ※ 150	3/31 支払賃借料 150
	3/31 残 高 ※ 4,750	250	250
10,500	10,500		
繰越商品		資 本 金	
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500	3/31 残 高 ※ 3,500	4/1 諸 口 3,500
3/31 仕 入 600	" 残 高 ※ 600		
1,100	1,100		
繰越利益剰余金			
3/31 残 高 ※ 1,700	4/1 諸 口 1,400		
	3/31 損 益 300		
1,700	1,700		

※ 例外的に「次期繰越」と記入することもできる。

残	高		
3/31 現 金 4,750	3/31 未払賃借料 150		
" 繰越商品 600	" 資 本 金 3,500		
	" 繰越利益剰余金 1,700		
5,350	5,350		



貸借対照表の作成へ



参 考 費用・収益の見越・繰延(◎)

1 費用の繰延

当期に計上した費用勘定の金額に、翌期以降分が含まれる場合、当該金額は決算整理において費用勘定から控除し、**前払費用勘定**(資産勘定)により翌期以降への繰延処理を行う。

なお、前払費用勘定については、翌期首において費用勘定への振戻処理(再振替仕訳)を行う。

(1) 支払時(年額1,200円を前払い)

(借) 費 用 勘 定	1,200	(貸) 現 金	1,200
-------------	-------	---------	-------

(2) 決算時(当期分9カ月、翌期分3カ月)

(借) 前 払 費 用	300	(貸) 費 用 勘 定	300
-------------	-----	-------------	-----

(3) 翌期首(再振替仕訳)

(借) 費 用 勘 定	300	(貸) 前 払 費 用	300
-------------	-----	-------------	-----

2 収益の繰延

当期に計上した収益勘定の金額に、翌期以降分が含まれる場合、当該金額は決算整理において収益勘定から控除し、**前受収益勘定**(負債勘定)により翌期以降への繰延処理を行う。

なお、前受収益勘定については、翌期首において収益勘定への振戻処理(再振替仕訳)を行う。

(1) 受取時(年額1,200円を前受け)

(借) 現 金	1,200	(貸) 収 益 勘 定	1,200
---------	-------	-------------	-------

(2) 決算時(当期分9カ月、翌期分3カ月)

(借) 収 益 勘 定	300	(貸) 前 受 収 益	300
-------------	-----	-------------	-----

(3) 翌期首(再振替仕訳)

(借) 前 受 収 益	300	(貸) 収 益 勘 定	300
-------------	-----	-------------	-----

3 費用の見越

翌期に計上する費用勘定の金額に、当期分が含まれる場合、当該金額は決算整理において当期の費用勘定に計上し、**未払費用勘定**（負債勘定）により見越処理を行う。

なお、未払費用勘定については、翌期首において費用勘定への振戻処理（再振替仕訳）を行う。

(1) 契約時（後払い）

仕	訳	な	し
---	---	---	---

(2) 決算時（当期分9カ月、翌期分3カ月）

(借) 費	用	勘	定	900	(貸) 未	払	費	用	900
-------	---	---	---	-----	-------	---	---	---	-----

(3) 翌期首（再振替仕訳）

(借) 未	払	費	用	900	(貸) 費	用	勘	定	900
-------	---	---	---	-----	-------	---	---	---	-----

(4) 支払時（年額1,200円）

(借) 費	用	勘	定	1,200	(貸) 現	金	1,200
-------	---	---	---	-------	-------	---	-------

4 収益の見越

翌期に計上する収益勘定の金額に、当期分が含まれる場合、当該金額は決算整理において当期の収益勘定に計上し、**未収収益勘定**（資産勘定）により見越処理を行う。

なお、未収収益勘定については、翌期首において収益勘定への振戻処理（再振替仕訳）を行う。

(1) 契約時（後受け）

仕	訳	な	し
---	---	---	---

(2) 決算時（当期分9カ月、翌期分3カ月）

(借) 未	収	収	益	900	(貸) 収	益	勘	定	900
-------	---	---	---	-----	-------	---	---	---	-----

(3) 翌期首（再振替仕訳）

(借) 収	益	勘	定	900	(貸) 未	収	収	益	900
-------	---	---	---	-----	-------	---	---	---	-----

(4) 受取時（年額1,200円）

(借) 現	金	1,200	(貸) 収	益	勘	定	1,200
-------	---	-------	-------	---	---	---	-------



参 考 試算表の種類 (◎)

試算表には、(1)残高試算表、(2)合計試算表及び(3)合計残高試算表の3つのタイプがあり、それぞれ目的に応じて作成される。前設例に基づいて各試算表を比較すると次のとおりとなる。

(1) 残高試算表 (勘定残高の一覧表)

決算整理前残高試算表 (単位：円)		
借方残高	勘 定 科 目	貸方残高
4,750	現 金	
500	繰 越 商 品	
	—	
	資 本 金	3,500
	繰越利益剰余金	1,400
	売 上	6,000
4,000	仕 入	
1,650	支 払 賃 借 料	
10,900	合 計	10,900

(2) 合計試算表 (勘定合計の一覧表)

決算整理前合計試算表 (単位：円)		
借方合計	勘 定 科 目	貸方合計
10,500	現 金	5,750
500	繰 越 商 品	
100	未 払 賃 借 料	100
	資 本 金	3,500
	繰越利益剰余金	1,400
	売 上	6,000
4,000	仕 入	
1,750	支 払 賃 借 料	100
16,850	合 計	16,850

(3) 合計残高試算表 (勘定合計及び勘定残高の一覧表)

決算整理前合計残高試算表 (単位：円)				
借方残高	借方合計	勘 定 科 目	貸方合計	貸方残高
4,750	10,500	現 金	5,750	
500	500	繰 越 商 品		
—	100	未 払 賃 借 料	100	—
		資 本 金	3,500	3,500
		繰越利益剰余金	1,400	1,400
		売 上	6,000	6,000
4,000	4,000	仕 入		
1,650	1,750	支 払 賃 借 料	100	
10,900	16,850	合 計	16,850	10,900